

学校だより

園 里 っ 子

惜 春 号

平成27年 4月24日発行



春風や 牛に引かれて 善光寺 一茶

本格的な春の到来です
淡い色の花々と仄かな香りが
やさしく豊丘の里を包んでくれています
満開の桜の木の下では姉妹学級同士で
楽しいお花見給食がおこなわれました



交通安全教室 17日

予定していた15日は全国的にも大荒れの天気となり、本校校庭の状態も悪化してしまいましたので、延期といたしました。17日も天候の変化をみつつ、予定していた計画を変更しながら須坂警察署、安全協会、PTA校外指導部員の皆様にご来校いただき、安全な歩行のしかたや安全な正しい自転車使用などについて学習しました。お忙しい中ご指導ありがとうございました。

第1回授業参観日 PTA総会 18日

午後から今年度最初の授業参観・学級PTAをおこないました。そして公民館をお借りしてPTA総会が開催され、豊丘小PTAが本格的に活動をはじめ、ひきつづいてこの3月まで本校にお勤めいただいた水澤教頭先生はじめ転出された職員のみなさんはじめご来賓や保護者の皆様にご出席いただき、PTA主催の新旧職員歓送迎会がひらかれました。お忙しいにもかかわらずご来校いただきありがとうございました。



全国学力状況調査がおこなわれました 21日

全国の小学6年生と中学3年生を対象にして、教科に関する調査（国語・算数・理科 主として知識に関する問題と活用に関する問題が出題される）と生活習慣や学習環境に関する調査がおこなわれました。



6年生社会見学 22日

○県立歴史館、森將軍塚古墳、古墳館を見学しました。弥生時代まで学習をすすめてきましたが、「歴史」のおもしろさ不思議さに興味を持ち始めています。最初にバックヤード探検をしました。旧明科町から発掘された北村縄文人とも対面！？しました。本物の人骨なので興味津々に観察していました。一見性別はわからない人骨も後頭部の骨にコブがあるかないかで判断できることを学びました。ちなみにコブのある方が男性だそうです。また本物の土器を見せてもらいました。担当の方から縄文と弥生土器の違いについて質問

されましたが、さすが子どもたちです。今までの学習を活かして色や形、模様の特徴の違いを自信を持って答えていました。森將軍塚では、そこから見える景色や古墳のスケールの大きさに感動している姿が見られました。「なぜ山の上に古墳を造ったのか?」「なぜ一人の王のためにこんなに大変な思いをして石を運んだのか?」という疑問も子どもたち中で解決することができたようです。自分たちの足で山道を歩き、実際に雄大な古墳の上に立ったからこそ、このような学びをすることができたと思います。歴史を大いに感じた1日になりました。

< 6学年だより より >

第1回避難訓練 23日

火災発生時の避難について基本的内容の確認をおこなう訓練をおこないました。全校児童が迅速かつ整然と校庭に避難することができました。学校長より「災害は忘れた頃にやってくる」の本当の意味を交えながら、避難訓練の目的や意義、さらにふだんの生活から大事にしたいこと、心がけたいことなどについて話をしました。





お世話になります よろしくお願ひします
外国語活動のALTは

スミス・コートニー先生です

昨年度にひきつづいて外国語活動ではコートニー先生に担任とともに指導をしていただきます。フロリダ州ご出身の先生は、サッカーと麻雀が大好きなんだそうです。休み時間には子どもたちとサッカーを楽しんでおられました「紙芝居」も楽しみです



大日向の宮本さんに引き続き『紙芝居』をやっていただけになりました。月に一回ほどのペースで連学年ごとに観せて、聴かせていただきます。

読み聞かせの会もはじまりました

○職員朝会が終わって、そーっと教室に戻ると、子どもたちは話の世界に入り込んでいる感じでした。話の世界に入ると想像力が高まったり、言葉が豊かになったりしていきます。これからも本との関わりが多くなるようにしていきます。

< 1 学年だより より >

～ 大切にしたいこと ～

学校長 古畑 一彦

【「教育」は「共育」、すなわち「共に育つ」こと “大人が変われば、子どもが変わる”】

ずっと大切にしたいもの、そしてこれからの時代に生きる私たちに求められていることは…

「正しい答えは一つ」と思い込むのではなく、「自分ならばこう考える」「自分はこう思う」ということをしっかり発信できること

○本物の優しさと厳しさがわかる大人に → 「良いものは良い ダメなものはダメ」 「ブレない姿勢」

- ・「認める・ほめる と 叱る」→「甘やかす と 怒る」ではありません
- ・「子どもを甘やかす大人ではなく、甘えさせ上手な大人に」なりましょう
- ・「引っ張るだけでは、いつかゴムは切れます。ときには緩めてやらなければ」

【「教育」は「共育」、すなわち「共に育てる」こと】

○『開かれた学校づくり』

☆保護者の皆様・地域社会・教育関係諸団体および関係諸機関とともに子どもたちの健全育成にあたりたいと願っています。お互いの“報告・連絡・相談”関係を強固にしていきましょう。→ 子どもを間に入れた相互の信頼関係強化。

- ・保護者の皆様、地域への積極的な情報発信 → 「今、学校や学級で何をしているのか、何がおきているのか」「子どもたちは、今、どうしている」を、より具体的な姿で伝え、知ってもらうことに（学校だより、学級だより、ホームページなどの積極的な活用 など）に努めます。
- ・「地域素材の発見と活用」「地域教材の開発・工夫」「地域人材や地域組織」の活用に努め、子どもたちの「豊丘への愛着と、豊丘に住み、学ぶ者としての誇り」を高めたいと考えています。皆様の積極的な情報提供をお願いします

【子どものこんな姿を 私は願っています】

- (1) 先の見通しをもって行動することで、自分の体と心を守ることができる子ども
- (2) 心のこもった挨拶や応対で、まわりの人たちの気持ちを明るくすることができる子ども
- (3) 人の気持ちを思いやり、人のために具体的に動くことができる子ども
- (4) 時・場・物を大切に、けじめをつけることができる子ども
- (5) 課題を持ち、自らすすんで粘り強く学習や活動に取り組むことができる子ども

< そのための具体的方策として > …『楽しく、安心して生活ができる学校づくり』に努めます

◎落ち着いてじっくりと学習に取り組むことができる学校と学級

～学力の向上は安心して落ち着いて学習に取り組むことができる環境づくりからはじまる～

◎活動に取り組む子どもたちの元気なかけ声や

気持ちのよい挨拶がたくさん飛び交い、美しい歌声が響く学校と学級

◎美しい言葉を大切にする環境が整った学校と学級

※全県的な学校教育の課題として、「学力向上」「不登校」「体力向上」が挙げられていますが、本校には、それらの課題解決に向けて、市の“教員補助員”を配置していただきました。今年度も学級担任、特別支援学級担任、専科教員とともに、学習・生活両面で“困り感”を抱えて悩む児童の支援をすすめています。

☆「困ったな・・・」「どうすればいいの・・・」 こんなときは・・・

- 1 子どもたちはもちろんのこと、おうちのみなさんも日々の生活の中で子育てなどにかかわっているいろいろな不安や悩みがでてくるのはあたりまえのことです。そんな時はいつまでもひとりで困っていないで担任・養護教諭・校長・教頭はじめ学校職員だれでもかまいませんので相談下さい。なお市では教育委員会子ども課が「子育て、発達のこと、教育相談など」の相談窓口となっており、教育相談員も定期的に学校を巡回（本校は毎週木曜日）し、相談や子どもたちへの支援をおこなっていただいています。さらに市内4中学校を拠点校とする「スクールカウンセラー配置事業」もおこなっています。その都度詳細についてお知らせしますので、ぜひご活用ください。
- 2 子どもたちが自分の体のことや心のことで、悩んだり、困ったり、他人から何か言われたり、何かされたりして、いやな思いを感じたときに、保健室の田中養護教諭や教頭・校長が窓口になっております。お家の方もご承

知おきください。

文 責 古 畑